

## ミクロネシア諸島自然体験交流事業 フォローアップ調査

### 調査の概要

**【調査目的】** 国立青少年教育振興機構では、日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成するため、平成14年から「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」を実施している。  
本調査では、事業に参加した日本の小中学生の実態等を把握し、今後の業務及び事業企画の参考とする。

**【調査対象】** <参加者経験者>

平成23年～29年の参加経験者（380人）のうち、住所が判明できた333人を調査対象者とした。  
その内、13～23歳の212人（男性：95人、女性117人）から調査票を回収した（回収率63.6%）。

<ホストファミリー経験者>

平成27年～29年のホストファミリー経験者（116家庭）を対象とし、32家庭から調査票を回収した（回収率27.5%）。

**【調査期間】** 2020年12月5日（土）～2021年1月8日（金）

**【調査方法】** 調査対象者に調査への協力依頼文書を郵送し、Webでの回答を依頼した。

**【調査内容】** 本調査では、事業に参加した子どもたちとホストファミリーの事業プログラムへの感想、現況等についてアンケート調査を行った。

○参加した際の事業内容について

○事業参加後の活動

自身の変化、国際交流事業への参加、海外留学または勤務経験、事業参加者等との交流、ボランティア活動 等

○今後やりたいことや希望する事業 等

○ホストファミリー体験後の子どもの変化、家庭での教育方針の変化 等

○前回調査結果（平成28年4月公表・平成14年～平成18年の参加経験者対象）との比較



## 事業について

### 1. 事業趣旨

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成する。

### 2. 実施内容

ミクロネシア地域各島での自然体験（海での活動、ハイキング、無人島などでの宿泊体験等）、現地の人々との交流体験（家庭への1日訪問、スポーツ交流等）を9泊10日で実施。

### 3. 参加者

小学5年生から中学2年生までの児童・生徒 64名  
 サブリーダー（少年の主張全国大会出場者） 12名

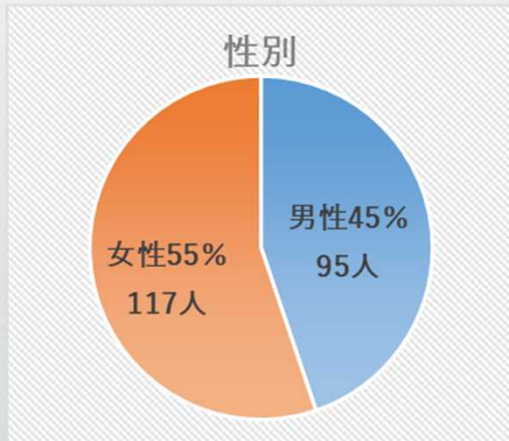
【参考】平成28（2016）年度ミクロネシア諸島  
 自然体験交流事業 チューク州プログラム例

日次	月日(曜)	地名	日 程
1	7/25 (月)	国立オリンピック記念青少年総合センター	参加者研修会 [東京:国立オリンピック記念青少年総合センター泊]
2	7/26 (火)	成田発 グアム着	成田空港へ 空路:グアムへ グアム着後、ホテルへ [グアム:ホテル泊]
3	7/27 (水)	グアム発 チューク(ウエノ島)着	グアム空港へ 空路:チュークへ 【オリエンテーション】 政府スタッフから滞在中の諸注意、自然・文化等についての講義 など JICA活動紹介 【歓迎交流会】 [ウエノ島:ホテル泊]
4	7/28 (木)	チューク(ウエノ島) ～ ビサール島	トノアス島へ移動 【トノアス行政庁長表敬訪問】 【スポーツ交流】 小学校にて現地の子供たちとスポーツ交流 【自然体験活動】 ビサール島へ移動 [ビサール島:無人島泊]
5	7/29 (金)	ビサール島	【無人島体験】 シュノーケリング クラブ体験 スポーツ交流 キャンプファイヤー [ビサール島:無人島泊]
6	7/30 (土)	ビサール島 ～ チューク(ウエノ島)	ビサール島からウエノ島へ移動 [ウエノ島:ホテル泊]
7	7/31 (日)	チューク(ウエノ島)	【異文化体験学習】 【ホームステイ】 二人一組で現地の子供たちの家庭に宿泊 [ホームステイ]
8	8/1 (月)	チューク(ウエノ島)	【歡送交流会】 [ウエノ島:ホテル泊]
9	8/2 (火)	チューク発 グアム着	チューク空港へ 空路:グアムへ グアム着後、ホテルへ [グアム:ホテル泊]
10	8/3 (水)	グアム発 成田着	グアム空港へ 空路:成田へ 成田着 合同学習発表会・解団式 解散

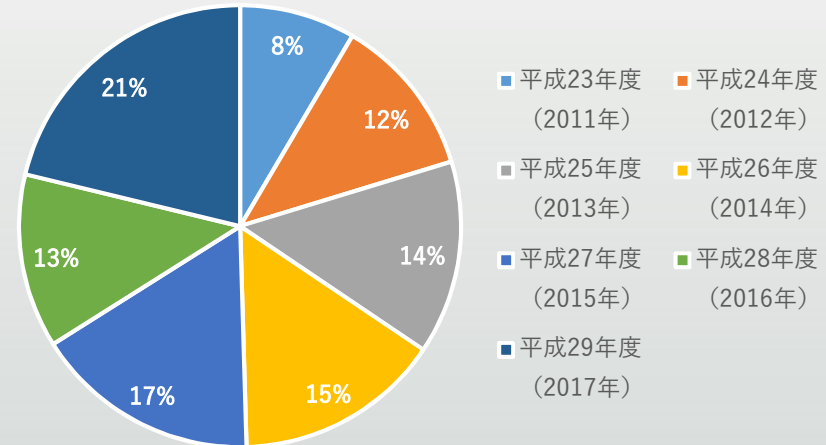
## 調査対象者の概要

回答総数 (n) = 212 名

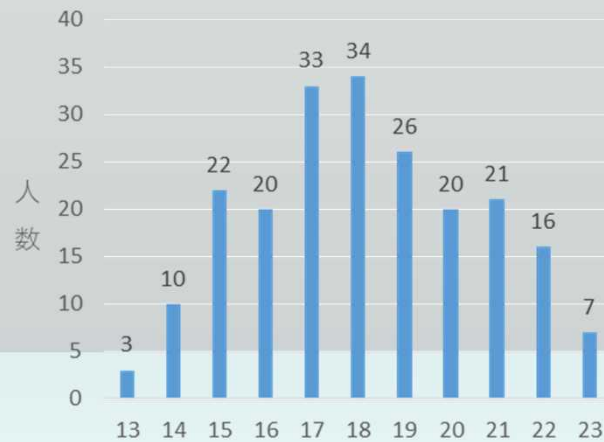
< 男女比 >



< 参加年度 >



< 現在の年齢 >



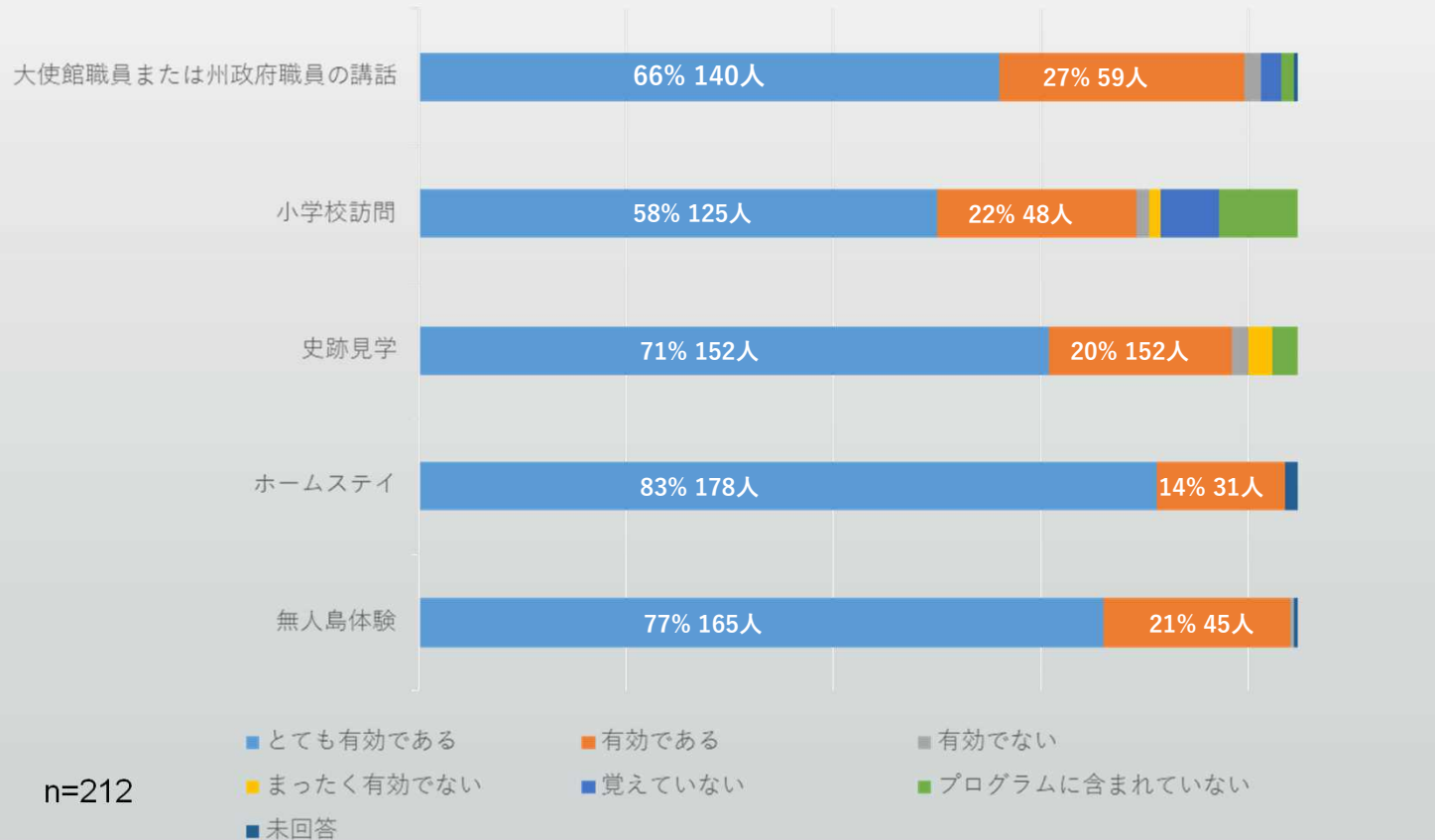
< 事業に参加した当時の学年 >



## 調査結果の概要

### プログラムの有効性

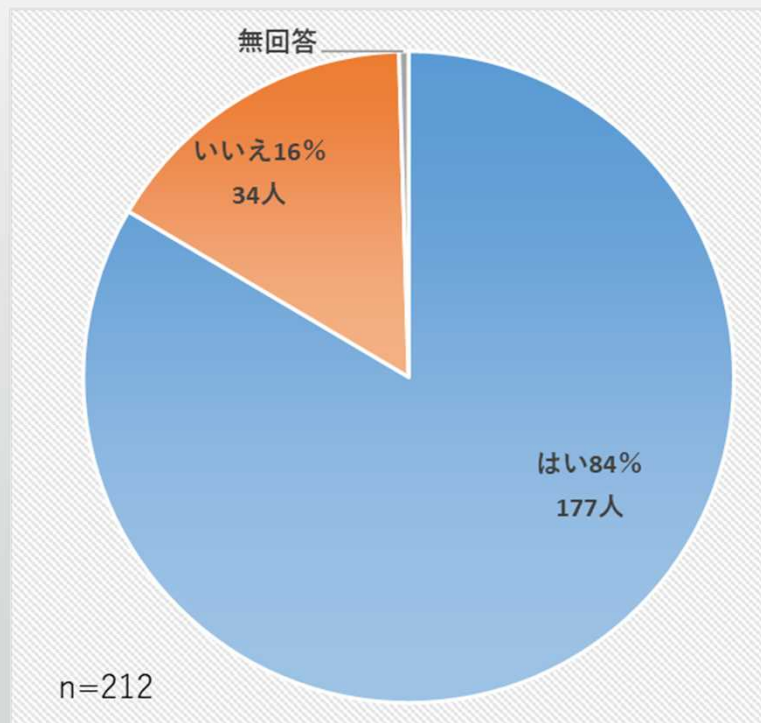
各プログラムが、ミクロネシアについての理解や、参加者との交流に有効であったかどうか



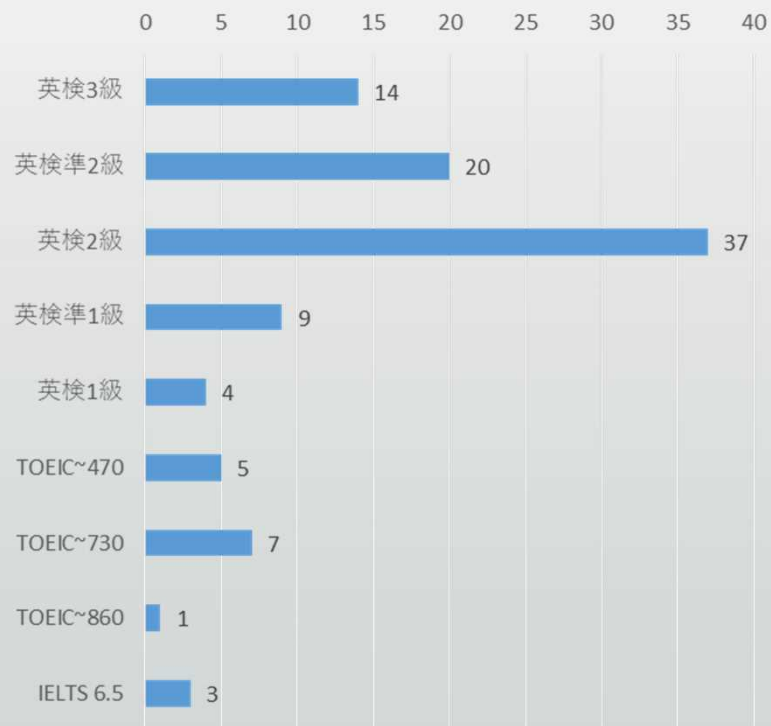
本事業のプログラム5項目すべてにおいて「とても有効である」と「有効である」を含めると80%に達した。特に「ホームステイ」については、83%の参加者がミクロネシアについての理解や交流に「とても有効だった」と回答している。

## 外国語の学習について

外国語の学習に力を入れるようになったか



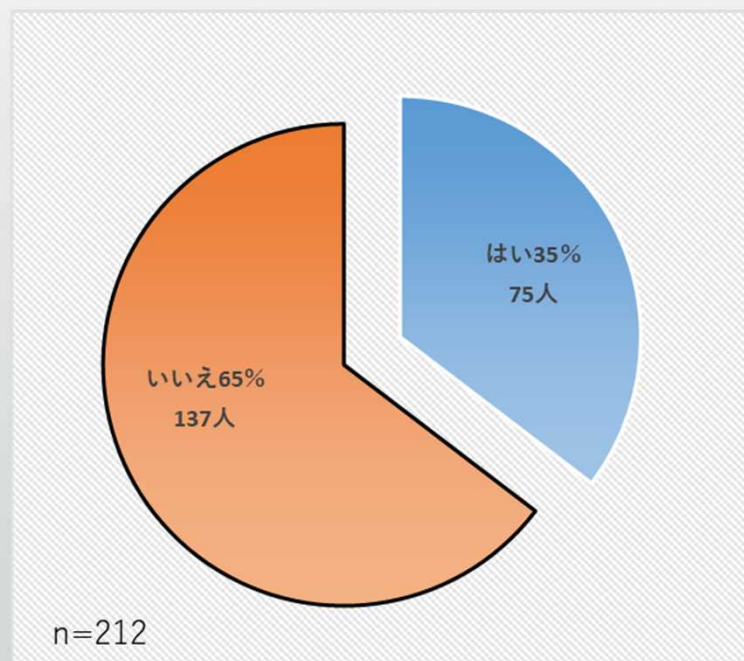
取得した資格等（複数回答可）



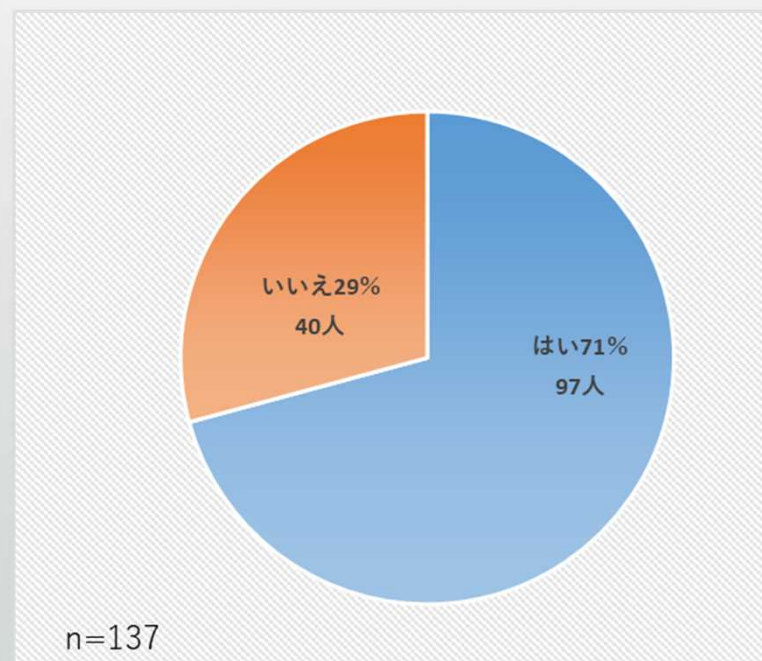
事業参加後の外国語の習得に関する取り組みについて、「外国語の学習に力を入れるようになった」と回答した割合は84%と、前回調査の63.5%を大きく上回る結果となった。  
また、資格習得にも積極的な姿勢がうかがえる。

## 海外留学について

海外留学をしたことがあるか  
またはする予定があるか



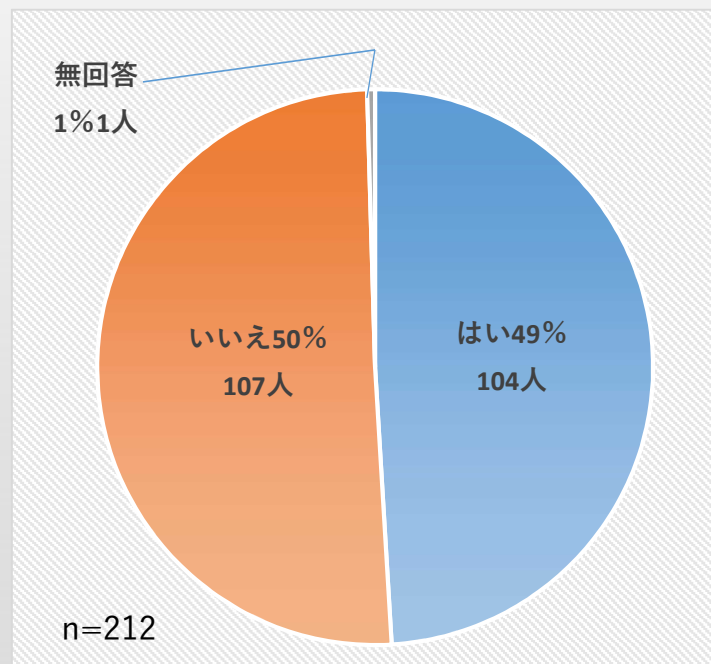
今後留学してみたいと思うか



「海外留学をしたことがある。またはする予定がある」と答えた人は35%だった。また、「いいえ」と回答した人の71%が「今後留学してみたい」と言っている。

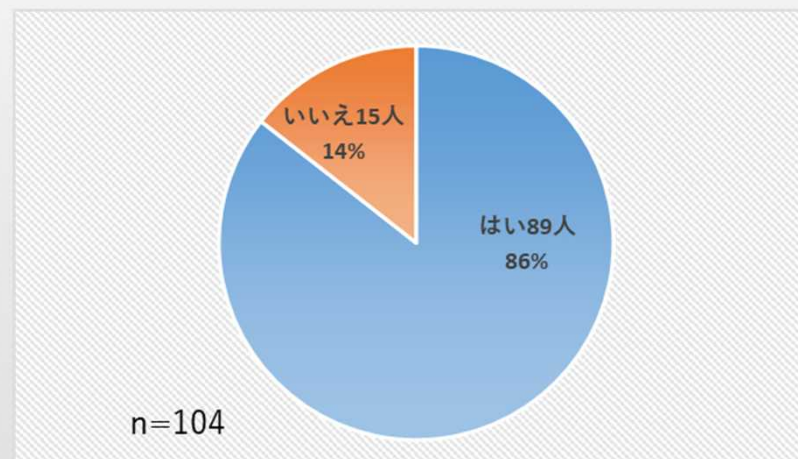
## 参加者との交流について

### 本事業と一緒に参加した日本人と 交流を継続している

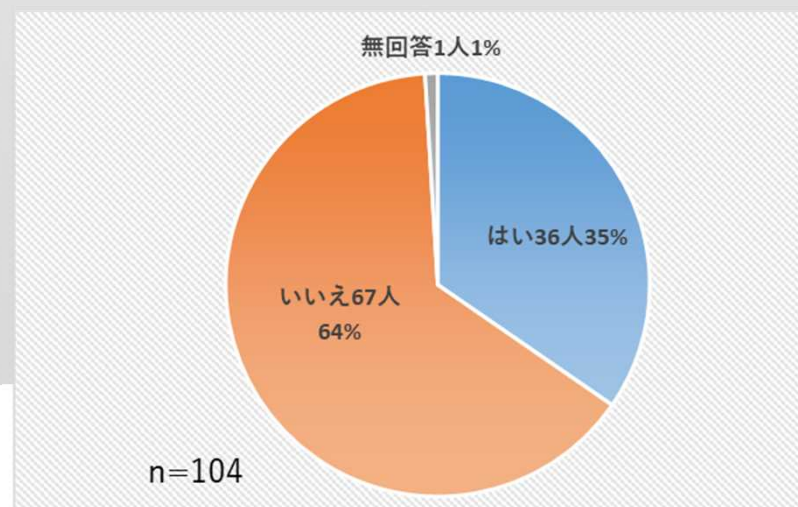


本事業参加者の49%が、一緒に参加した日本人と交流を継続しており、前回調査の37.7%を上回る結果となった。その中の86%が「SNS、メール、または電話で連絡をとっている」、35%が「一緒に参加した日本人と再会」している。

### 一緒に参加した日本人とSNS、メール、 または電話などで連絡をとりあっている



### 一緒に参加した日本人と再会した

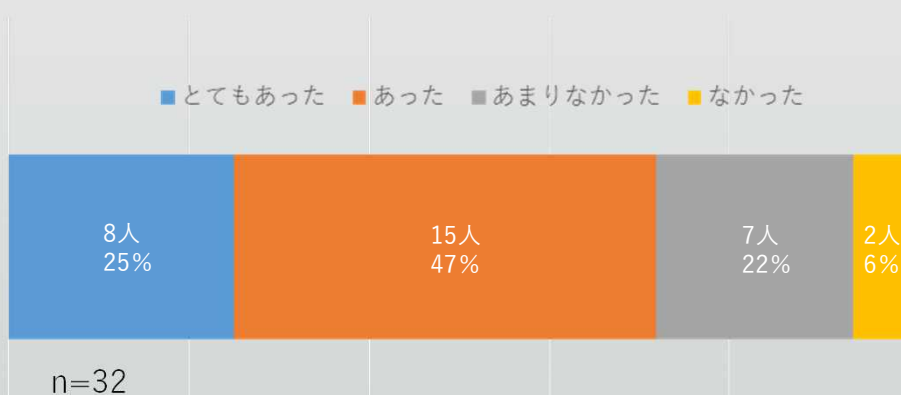


## 受入事業におけるホストファミリー(HF)への調査結果

### <参加年度>

平成27年度(2015年)	13
平成28年度(2016年)	13
平成29年度(2017年)	6
合計	32

### ホストファミリー体験後、 自身の子どもに変化はあったか

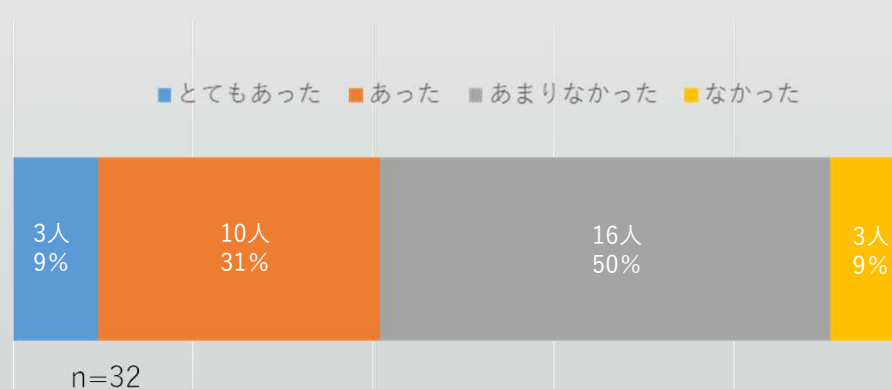


HF体験後の自身の子供の変化について、71%の家庭が「とてもあった」「あった」と回答した。具体的には、「ミクロネシアに興味を持った」「英語の学習(英会話)に力を入れるようになった」「海外短期留学に行った」などの意見が多かった。

### <参加当時の子どもの学年等>

未就学児	小学1-3年生	小学4-6年生	中学生	高校生以上	合計
5	6	28	9	6	54

### ホストファミリー体験後、 家庭での教育方針に変化はあったか



HF体験後、家庭での教育方針の変化について、40%の家庭が「とてもあった」「あった」と回答した。「親子共々英語に興味をもつようになった。」「本人がやりたいと思った英語教育はなるべくさせてあげようになった。」「英語の重要性に気づいた」などの意見が目立ち、「家族でSDGsの話をするようになった」という家庭もあった。



## 自由回答で寄せられた意見

<今後どのような交流事業やプログラムがあると良いと思うか>

### 【交流に関すること】

- ・一度きりではなく、希望者は複数回継続して訪問や関わりができるようなプログラム
- ・実際に現地に移住した人との交流
- ・オンラインでの海外青少年との交流（ZOOM等）
- ・SDGsとからめた文化交流
- ・同窓会のようにまた一緒に島に行った仲間と集まる

### 【ボランティアに関すること】

- ・学生による医療機関でのボランティア
- ・災害時のボランティア活動

### 【勉強に関すること】

- ・自国の文化を再確認できるような講座
- ・地域の医療や建築、農業などより専門的な分野を深く学べるプログラム

<その他 プログラム内容への意見>

- ① 現地の子どもたちと交流する時間を増やしてほしい
- ② ホームステイを長くしてほしい
- ③ 現地の方と簡単なゲームなどのレクリエーションを通じたアイスブレイクの機会がもう少しあればよい